

チェチェンのテロ

2010年4月4日 アシェル・イントレーター

先週の月曜日、朝7時55分、モスクワ地下鉄のルビャンカ駅で女性テロリストが自爆しました。8時30分にパーク・クリトゥーリ駅(訳注:「文化公園」という意味)でも別の女性テロリストが自爆し、総勢39名が犠牲になり、100名が入院しました。

ほとんどのメディアは、このテロリストはチェチェンの反政府勢力だと報道していますが、それはある意味正しく、ある意味正しくありません。1990年代、チェチェンの独立運動はイスラム過激派によって取って代わられました。「政治的に正しい」ジャーナリストらはこのテロ攻撃は「民族主義」ではなく、より「ジハード主義」および「イスラム主義」であると事実について軽視しようとしています。

ディミトリ・プロコペヴ(マアリヴ誌の記者)は、チェチェンのジハード主義者らは中央アジア全域に対してテロの輸出を行っている述べています。チェチェンのテロの90%はモスクワを標的にしたのではなく、ダゲスタン(注1)、イングーシ(注2)、カバルディノ・バルカル(注3)、そしてチェチェン国内を標的としています。彼らの目的はイスラム首長国を作ることにあります。

注1:ダゲスタン共和国:カスピ海と国境をへだてるロシア南部のカフカス山脈にある自治共和国

注2:イングーシ共和国:、ロシア連邦の北カフカス連邦管区にある共和国。

注3:カバルディノ・バルカル共和国:ロシア連邦の連邦構成主体のひとつ。北カフカスに位置するカフカス系のカバルダ人とテュルク系のバルカル人の民族自治共和国

このテロリスト集団の指導者であり、チェチェンのビンラディンとして知られているドク・ウマロフ(注4)は自爆テロの翌日動画を公開し、「3月29日、異教徒らを一扫するために二つの特殊作戦が実行に移された。」と述べました。別の指導者であるサイド・マブリアティア(注5)は最近こう述べている。「我々は『自由』という言葉のために戦ってきた日々は過ぎ去り、今や我々はアッラーのために戦っているのだ。」

注4:ドク・ウマロフ(Doku Umarov)は、チェチェン分離主義者の野戦指揮官、国際的に未承認のチェチェン・イチケリア共和国大統領。2007年より「カフカス首長国」の首長(アミール:emir)を自称している。チェチェン人。

注5: Sayid Maburiatiah に関する資料はネット上で見つからず。日本語表記「サイド・マブリアティア」は、正しい発音が分からないため推測で記述しております。

メドベージェフ・ロシア大統領は、ロシアは「テロリストの最後の一人を殲滅するまで総力戦を行う」と宣言しました。プーチン首相はより攻撃的な表現を使っています。(注:イスラエルに対する国際的な圧力と比較するならば、私たちはロシアに対してモスクワの郊外に建物を建てることを止めるよう、テロリストの要求に対して「痛みの伴う」譲歩をして和平を築くよう提案すべきかもしれません。)

エルサレムでの過越の祭り

過越の祭りの前の安息日、私たちはイエシュア(イエス)の十字架について教え、過越の祭りの翌安息日、私たちは復活について教えました。2000 年後エルサレムで再びメシアについてヘブライ語で、聖霊の油注ぎの中で、ユダヤ人からユダヤ人へと公に述べられていることについて知り、私は神のみこころの喜びを感じました。

使徒 2:14 そこで、ペテロは十一人とともに立って、声を張り上げ、人々にはっきりとこう言った。「ユダヤの人々、ならびにエルサレムに住むすべての人々。あなたがたに知っていただきたいことがあります。どうか、私のことばに耳を貸してください。

使徒 4:33 使徒たちは、主イエスの復活を非常に力強くあかし、大きな恵みはそのすべての者の上にあった。

私たちの民は以前にも増して永遠の命の福音に心を開いています。イエシュアの死と復活の証は愛と真実を持ってイスラエル全土で分かち合いがなされています。

復活礼拝

土曜日の午後、私たちはエルサレムにある園の墓での共同の復活礼拝に集まりました。海外からのゲスト、エルサレム地域からのアラブ クリスチャン、そしてメシアニックジューを含む数百名が参加しました。

私たちは開かれている墓の前に立ってイエシュアの復活を祝いました。(この場所が実際の場所なのかどうかは分かりませんが、調査によりますと最も可能性の高い場所であるといえます。開かれた扉があるこの古代の墓は、新約聖書に書かれている記述と際だった類似点があるのです。)

賛美と分かち合いのほとんどはアラビア語で行われました。ハイム・W 師はヘブライ語で賛美をリードし、オデド・S 師はヘブライ語でみことばを教えました。交わりは真摯で、誠実であり、愛がありました。政治的な問題に関してパレスチナ人であるアラブ クリスチャンやイスラエル人メシアニックジューであっても反対意見がありますが、そのような差異は横に置いて霊と信仰による私たちの一致を祝いました。

過越の祭りとソロモンの雅歌

ラビ的伝統によりますと、ソロモンは過越の祭りの間に雅歌を書いたと言われています。それは、雅歌が過越の祭りの期間中、イスラエル全土のシナゴークで音読されているからです。

中世の聖書解説者であるラシは、ソロモンの雅歌は神とイスラエルの民との間の愛について述べているというユダヤ人の一般的な見解を引用しています。この見解は、歴史的にクリスチャンの、ソロモンの雅歌をキリストと教会との間の愛(エペソ5:32)という見解と並行しています。誰が正しいのでしょうか。

ヘブライ的な概念である「ケヒラー」はイスラエルに関するユダヤ的概念と教会に関するクリスチャンの概念両方が含まれています。諸国の教会とイスラエルのレムナント(残りの人々)は二つの「重なり合う」陣営なのです。それらは並行し一つであり、しかし独特なのです。

メシアの体は二つの陣営として見ることができ、あるいは二重の陣営として見ることができます。

雅歌 6:13 帰れ。帰れ。シュラムの女よ。帰れ。帰れ。私たちはあなたを見たい。どうしてあなたがたはシュラムの女を見るのです。二つの陣営の舞のように。

イエシュアはイスラエルと教会両方を愛しておられます。主は両方に対して大いなる望みを持っておられます。私たちがこれら二つを一緒にした時、主の愛が非常に情熱的であるため、男性が花嫁に対して持つ情熱としか比較できないのです。それを感じる事ができるでしょうか。

雅歌 7:10 私は、私の愛する方のもの。あの方は私を恋い慕う。

現在、真の霊的な花嫁は愛と純潔の中にいます。私たちは賛美と崇拜の中にイエシュアに対する愛を持っています。それは花婿に対する花嫁の愛の霊的な型なのです。主の支配に服従することに美と喜びがあるのです。

イザヤ 33:17 あなたの目は、美しい王を見、遠く広がった国を見る。

ソロモンの雅歌の別のテーマはイスラエルの地です。花嫁と花婿の愛と、メシア、教会そしてイスラエルの愛は共にイスラエルの地形と野生生物という自然の側面とも対比されます。ほとんどのクリスチャンにとってなじみがないでしょうが、イスラエルの地に対する情熱的な愛はユダヤ人とシオニスト両方の思想としてよく知られています。

イスラエルの民は聖書の中でイスラエルの土地と「結婚した」と述べられています。(イザヤ 62:4 あなたはもう、「見捨てられている。」と言われず、あなたの国はもう、「荒れ果てている。」とは言われない。かえって、あなたは「わたし の喜びは、彼女にある。」と呼ばれ、あなたの国は夫のある国と呼ばれよう。主の喜びがあなたにあり、あなたの国が夫を得るからである。)ソロモンの雅歌は男と女の愛、キリストと教会の愛を語っており、そして両方をイスラエルの土地と対比させています。